

皆様おはようございます。11月最初の礼拝を迎えております。今年もあと今月、来月を残すのみとなりましたが、私たちには喜ばしいアドベントとクリスマスの大きな楽しみと喜びが残されています。光り輝くイルミネーションに私たちは慰めを得ます。人の命となるためにこの世に来てくださったイエス様を思い起こし慰めと励ましをいただきます。闇は光に打ち勝つことができなかつた。あらゆる闇を打ち破り、私たちを救いと解放と喜びに満たしてくださるイエス様をお迎えして喜ぶ時が与えられていますことに心から感謝いたします。さて使徒言行録8章の終わりのところまでやって参りました。先週は魔術師シモンと言う人が登場いたしました。彼はペテロとヨハネが手を置いて聖霊を授けることができるその能力に心奪われていました。そのために洗礼を受けて彼らに近づいていきましたけれども、ペテロにはその魂胆が見抜かれていました。

腹黒く、悪の縄目に縛られて、がんじがらめにされているその人間を神様はイエス様の贖いによって解放していただきました。ローマ8章にはこうあります。8:1 従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

8:2 キリスト・イエスによって命をもたらず霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

この救いが誰のためにも与えられています。ただただ私たちはイエス様の贖いによって解放されて神の前に正しき心と作り変えていただいたことを感謝しながら進むことができることをありがたく思います。そして今度はフィリポはガザと言う所に遣わされて行きます。

このガザは荒れ果て寂しい所となっています。このギリシャ語の言葉は、こういう意味をも持っています。「心細い、惨めな、孤独な、寂しい、わびしい、無人の、寂れた、荒れ果てた、人気のない、活気のない」所。現在もこのガザ地区はパレスチナ人たちの居留地であり、政治的な対立により、イスラエルからの攻撃を受け続けて痛々しいところとなっております。この聖書の時にも、また荒れ果てた寂しいところ、そしてそこに至る道であったのです。ここに1人の人物が登場いたします。アフリカのエチオピアの女王カンダケの高官で、財産の管理をしていたエチオピア人の宦官がエルサレムに礼拝に来ていました。どのような形で、天地創造の神様を信じるようになったのかは書かれていません。しかし、宦官として女王に仕える身ですからその身に去勢の手術を受けるわけです。申命記23章にあります、そのようにして去勢した人は会衆に加わってならないと、排除される身であったことが分かります。それでもなお彼はこの天地を創造された神様を信じ聖書を読み続けていました。職務の為とは言え自ら体を傷つけそして聖書の中でも主の集会に加わってはならない

と言い渡されるような、その身の上の彼の心には孤独があったに違いありません。その子孫を見ることができないと言う寂しさもあったと思います。その中で彼はイザヤ書 53 章を、馬車の中で声を出して朗読していました。そんな彼の所であって、そこに聖霊がフィリポに語りかけました。追いかけてあの馬車と一緒にいけ。まさにそこは荒れ果てた砂漠の道。寂しい所に向かっていくその地形と宦官の心は近いものがあったかと思いますが、心に深い渴きを抱きながら聖書朗読する異邦人、エチオピア人の宦官のもとに、神様は、聖霊様によりフィリポに語り掛けられるのです。「追いかけて、一緒に行け」と語られるのです。

フィリッポが節走り寄ると 30 節、預言者イザヤの私を朗読しているのが聞こえました。

8:30 フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりになりますか」と言った。

8:31 宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。

宦官は、「手引きしてくれる人がなければどうして分かりましょう」と言いました。このように熱心に主を信じ、聖書を読み進めていながらもその人の熱意にもよって必ずしも聖書は全て理解することができないことがあります。手引きすることをしなければどんなに意欲があっても、知りたい気持ちが強くても、社会的に知識があっても経験があっても、御言葉を理解することができない。そういうことなんだなあ、と私たちは思うわけですね。しかしそのような人を神様はずっと見ておられて、聖霊は僕を遣わして、「追いかけてあの人と一緒に行け」と語られるんですね。その 1 人の魂を追い求め追いかけていってそして彼を手引きしてあげなさい、助けてあげなさいと神様はお導きになります。

私も中学生の時に登校中にもらった小冊子がきっかけで聖書に関心を持ち聖書を買って読み進めておりました。もちろん全てを理解することができませんが新約聖書の言葉に胸を打たれ、そして心から信じたいと願ったことを思い起こします。私ははじめ、聖書を倫理や道德の教科書のように読んでおりました。正しくまっすぐ行きなければならぬ義務を教えられ、優しく、愛情深く、我を張らずにまっすぐに、嘘をつかず生きていきたいと願うようになりました。そんな中、ローマ 10 章にある言葉が私の心に響いておりました。

ローマ 10:8 では、何と言われているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、／あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている

信仰の言葉なのです。

10:9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

10:11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。

この言葉が私には光でした。「あなたは救われる」という言葉に目がとまり、私もその救いを受けたいと思い、イエスは主です。神はイエス様は死者の中から復活させられましたと独り言のように口で語っていたことを思い起こします。心で思いそして口でその自分の部屋で告白しておりましたが、公に告白するとは、教会で信仰の告白をすることだということを後で知りました。けれどもまさに今日庄原教会で洗礼諮問会がありますが、公に信仰告白されようとしておられる方の祝福のためにお祈りいただきたいと思います。

手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」という中を、まさに私も進んでおりました。その後アメリカに留学しました時に実際にクリスチャンの多くの方々に出会いそして手引きしていただき、祈っていただき、イエス様に導かれ、結ばれた、そのことを深く感謝するところです。その中であって聖霊が私の出会いましたクリスチャンの方々に語りかけ、追いかけて一緒に行ってあげなさいと、神様がクリスチャンたちに語りかけてくださった事を思います。そのおかげで今私が信じることができるのだと思います。

32 節彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、／口を開かない。

8:33 卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」

8:34 宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」

イザヤ 53:11 彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。

53:12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。

8:31 宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。

8:34 宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」

8:35 そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

聖書が焦点を合わせる、フォーカスを合わせるただ1つのポイントはイエスキリストは救い主であるということです。イザヤは、時代のはるか歴史の先に生まれてくるイエス様を神の霊によって預言していました。

イエス様は「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、／口を開かない。

8:33 卑しめられて、その裁きも行われなかった。」とありますが、口を開けず、ただ従順に十字架にかけられ地上から取り去られました。しかし彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。

53:12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。」と預言されてありますように、これが福音であり、神様の与えてくださった喜びの良き知らせです。

イエス様について知ること。イエス様にある神様のメッセージが神様の慰め深い良い知らせであり、イエス様を知ってこそ聖書を理解することができるのです。

イザヤ書 53 章に心とらえられていた宦官。そして彼は最初、その意味を知ることが出来ませんでした。神様の霊によって遣わされた、「追いかけて、あの馬車と一緒にいけ」と言われたピリポによって良き知らせの内容が明らかにされました。そして宦官はイザヤはイエス様のことをはっきりと預言していたということを知るのです。そして宦官はイエス・キリストを信じました。そして車を止めさせてここに水があります洗礼を受けるのに何か妨げがあるでし

ようかと語りました。彼はイエス様のことを知り、真剣に救いを求めて、今すぐに洗礼を受けたいと願いました。彼は自ら罪とがを認め悔い改め、そしてその罪の身代わりのために死んでくださったことを信じて水による洗いを求めました。しかし水で洗っても洗ってもどうすることもできない人の汚れを、主の十字架による救いによって、その決定的な清めをその血潮をもって成してくださったイエス様の救いを受け入れました。

38:38 そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。

8:39 彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。

喜びに溢れて「旅を続けた」という言葉は「人生の行路を進む」という意味があります。フィリポは霊によって連れ去られ、もう姿を見ることはなくなりましたが、もはや手引きをしてくれる人は必要ないのです。神様の聖霊が、フィリポが宦官の導き手として遣わされたように遣わされ、「追いかけて、あの馬車と一緒に」行って下さり、ずっと共にいて導き手となって人生の旅を伴ってくださり、喜びに満ちて人生の旅を続けることが出来るようにして下さったのです。

追いかけてきて下さって一緒に行ってくださいる聖霊が彼と共におられるのですから彼は喜びに溢れて人生を続けることができました。

8:40 フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。

主の聖霊の働きの風に乗って、フィリポはますます元気を得て良き知らせを伝えて行きます。そしてイエス様により良き知らせを妨げるものは何もありませんでした。こうして福音、喜ばしきイエスキリストによる神の福音は世界に伝わり、そしてこの日本に住む私たちにも伝わりました。

私たちも直にいつも聖霊の導きをいただいて縦横無尽に導いていただいて、1人の魂を「追いかけて共に生き手引きを」させていただきたいと祈ります。執り成しをし証をさせていただきたいと願います。「手引きしてくれる人がどうしてわかりましょう」との叫びがあります。この言葉を胸に深く留め進ませてさせていただきたいと願います。